

神奈川県におけるアライグマの野生化

中 村 一 恵

Kazue NAKAMURA: A Note on the Naturalization
of Common Raccoon in Kanagawa Prefecture

最近神奈川県鎌倉市においてアライグマの野生化が確認されたので報告する。アライグマはアライグマ科に属し、コスタリカ南部からアルゼンチン北部にかけて分布するカニクイアライグマ (*Procyon cancrivorus*) と、カナダ南部、アメリカ合衆国から中央アメリカにかけて分布するアライグマ (*Procyon lotor*) の2系統がある。後者については数種に分ける分類もあるが、一般にはカニクイアライグマとアライグマの2種に分類される(今泉, 1988)。

現在わが国では岐阜県可児市にアライグマの野生化が知られているが、日本に野生化したのは北米を中心に分布するアライグマ (*Procyon lotor*) といわれている(安藤・梶原, 1985)。鎌倉市に野生化したものも本種と思われる。

発見のいきさつは次の通りである。

1990年7月19日、鎌倉市扇ヶ谷1丁目にお住まいの植物学者・靱山泰一先生の天井裏に何かが住みついた。2週間にわたって天井裏をカリカリ掻いたり、歩きまわる音に悩まされた家人が天井裏を調べたところ、4匹のケモノが飛び出し、家の中を突っ切って縁の下に逃げ込んだ。このうちの3匹は子供で、親子であったという。逃げるケモノを目撃した家人の一人が尾にリング状の斑紋を認めたことから、不明のケモノはアライグマではないかという疑問が筆者のもとに寄せられた。この情報を得たとき、最近になってハクビシンが鎌倉に進出するさきしのあることから(中村, 1990a)、天井裏に住みついたのはハクビシンかと疑った。しかし、1990年8月30日に靱山泰一先生のご協力を得て現地の聞き込み調査を実施した結果、ハクビシンではなく、アライグマであったことがわかった。

さらに情報を得るために地元のタウン誌「鎌倉朝日」のご協力を得て、アライグマ、タヌキ、ハクビシンの3種のケモノについて読者から情報の提供をお願いし

た(中村, 1990b)。その結果、38件の情報が筆者のもとに寄せられた。

アライグマに関するものは4件で、他はすべてタヌキに関するものであり、ハクビシンに関する情報は得られなかった。アライグマ4件のうち、1件はタヌキの誤認と思われ、残り3件はアライグマに間違いないと判断された。以下にこれらの記録について記述する。

靱山泰一先生は聞き込み調査にご同行下さり、全面的にご協力下さった。鎌倉朝日新聞社の藤沼正人氏は情報提供の呼び掛けのために貴重な紙面をさいて下さった。加納襄二氏と大島仁氏は得難い写真をご提供下さった。これらの方々すべてに対し厚く御礼申し上げます。また貴重な情報をお寄せ下さった多数の鎌倉市民の皆様にも合わせて衷心より御礼申し上げます。

聞き込み調査で得られた目撃記録

1. 1989年7月1日の夜、飼犬が吠えるので出てみると、床下に生後2カ月ぐらゐのアライグマの子供がいた。これを捕らえて1カ月ほど飼育したが、散歩させていたときに逃げられてしまった(鈴木知夫氏・鎌倉市扇ヶ谷3丁目)。
2. 1989年12月頃から3頭のアライグマが庭に来るようになった。アライグマは庭木を伝って二階にやってきて餌をねだるようになった(大島仁氏・鎌倉市扇ヶ谷3丁目)。大島仁氏撮影の写真から判断して親子であったようである(写真1)。

鎌倉朝日の読者からの情報

1. 1990年10月10日の夜2時頃、飼っている柴犬が吠える声で目がさめ、外に出てみると、木の上に2匹のアライグマがいた。最初はムササビと思った。棒でおどしたところ、木を伝って自宅裏山に逃げてい

った（山室収氏・鎌倉市雪の下2丁目）。

2. 1988年頃から家にタヌキが現われるようになったためドッグフードで餌付けした。1989年7月17日、2匹の親に連れられた子ダヌキ8匹が出現。1989年秋から冬にかけて毎日14匹のタヌキが出てきた。1990年3月頃からは餌を出しても残っていることが多く、そのうちに姿を見せなくなった。タヌキがなくなる少し前の1990年2月頃、タヌキの餌を食べている動物がいた。よく見るとアライグマであった。次の夜、家族3人でアライグマであることを確認した。後ろ足をケガしていた。二晩続けて出ただけで、その後は現われない（甲田通子氏・鎌倉市扇ヶ谷4丁目）。
3. 1990年4～6月、雨の降った日に突然、隣家（空家）の屋根裏に住みついたアライグマが姿を見せる。毎晩カリカリ何かを齧る音がし、7月4日の夜から5日の昼間にかけて再び姿を現わし、このとき写真に撮った（写真2）。親1頭、子供が2頭いた。屋根のさっかけにはかじりカスがたまっていた。5日前後に近所の人が地主に通報し、大工が来て屋根裏を調べた。中に入って見ると、親1頭と子供が3頭いた。親は大工を威嚇。大工が捕まえようとしたが逃げられてしまった。7月5日以降は姿が見えなくなった（加納襄二氏・鎌倉市扇ヶ谷1丁目）。この親子が、靱山先生宅の屋根裏に移り住んだものと思われる。なお、アライグマが人家の屋根裏に営巢する例があることは、岐阜県可児市においても確認されている（梶原，1991）。

お わ り に

以上5件の目撃記録が得られたが、親子連れが観察されていることから、アライグマが野外で繁殖してい

ることはほぼ間違いない。人家の屋根裏などが子育ての場として利用されているようである。聞き込み調査を行った際、長寿寺で飼われているものが逃げ出したのではないかという情報が得られたので住職に会って確かめたところ、1980年頃からアライグマを飼っているとのことで、10年間で30頭ほどに増え、その一部を岩手や山口のお寺関係者に譲渡したという。住職の話によると、檻の下を土を掘って逃亡したことが複数回あったということであるから、鎌倉市に野生化したアライグマの由来は長寿寺にあると考えられる。現在、長寿寺にも毎晩のように餌（ドッグフード）を食べに2頭のアライグマが出てくるということであった。

現在の分布は扇ヶ谷一帯と雪の下の一部で、生息地は限定的であるが、今後さらに分布が拡大される可能性は高い。なお、鎌倉市でのアライグマは1988年頃から野生化した模様である。

文 献

- 安藤志郎・梶原敬一，1985. 岐阜県におけるアライグマの生息状況. 岐阜県博物館研究報告，(6)：23-30.
- 今泉吉典（監修），1988. 世界哺乳類名辞典. 平凡社.
- 梶原敬一，1991. アライグマが天井裏でお産. 岐阜ふるさとと動物通信，(38)：613.
- 中村一恵，1990a. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況（補遺）. 神奈川自然誌資料，(11)：75-78.
- 中村一恵，1990b. 鎌倉の最近・動物事情. 鎌倉朝日，(125)：1.

（神奈川県立博物館）

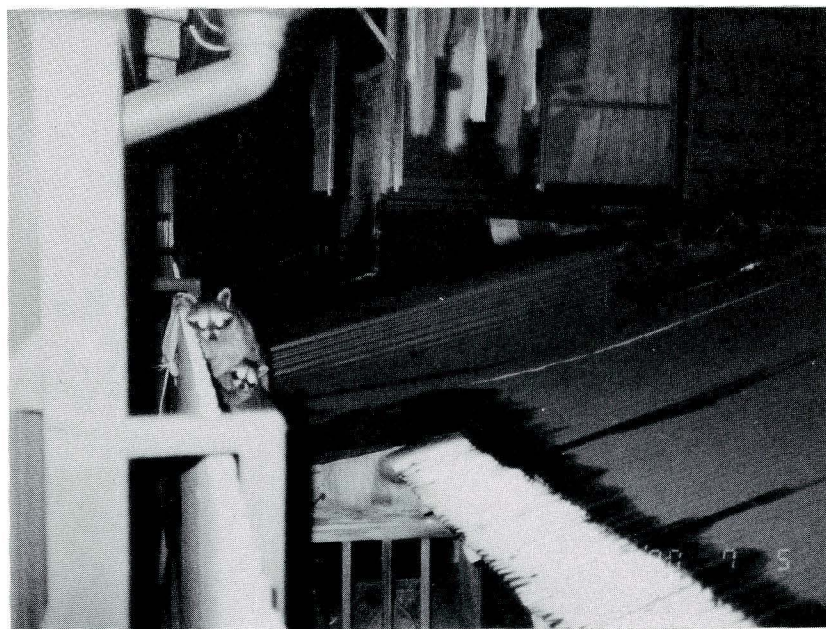


写真1(上). 人家の二階で餌をねだるアライグマの親子
(大島仁氏撮影, 1989. 12. 27).

写真2(下). 屋根に現われたアライグマの親子
(加納襄二氏撮影, 1990. 7. 4).